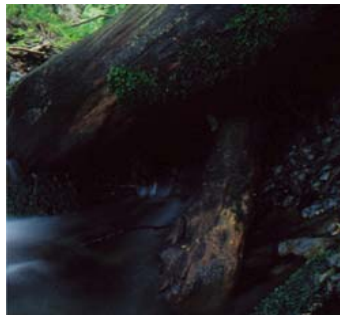


農林中央金庫

The Norinchukin Bank

2010年度決算概要説明資料

2011年5月20日



～目標利益水準を達成し、評価差額も着実に改善 復配へ～

■ 経常利益1,173億円，純利益1,443億円

- 資金収支を着実に計上する中、与信関係費用は低減。通期での目標経常利益水準(500～1,000億円)を上回る実績。

■ 自己資本比率22.76%，Tier I比率16.80%(速報値)

- 有価証券評価差額の改善等により、自己資本比率、Tier I比率は各々前期比3.50%、2.92%上昇。

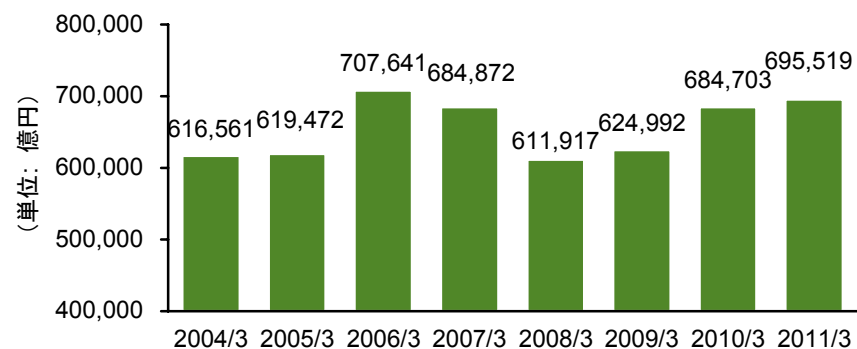
■ 2011年度の目標経常利益水準は500～1,000億円

- 引き続き、安定的な財務運営を志向。
- 農林水産業を基盤とする協同組織中央機関・専門金融機関として更なる機能を発揮。

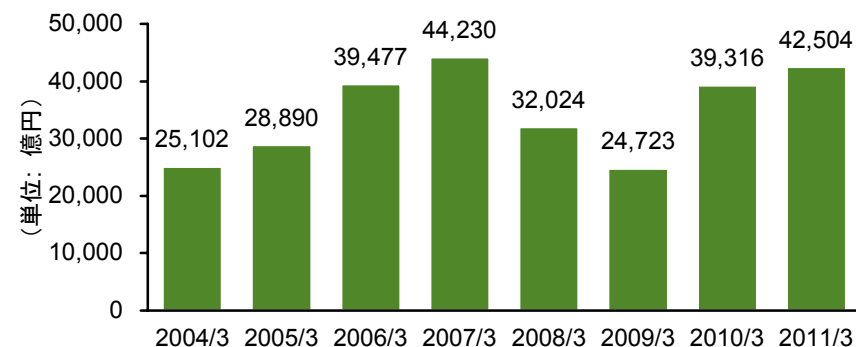
～改善基調を継続～

- 安定した利益計上と有価証券等の評価差額の改善により総資産・純資産額は増加。

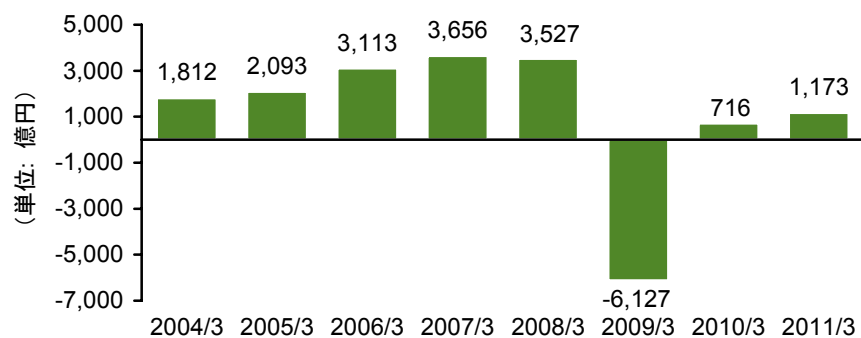
総資産額



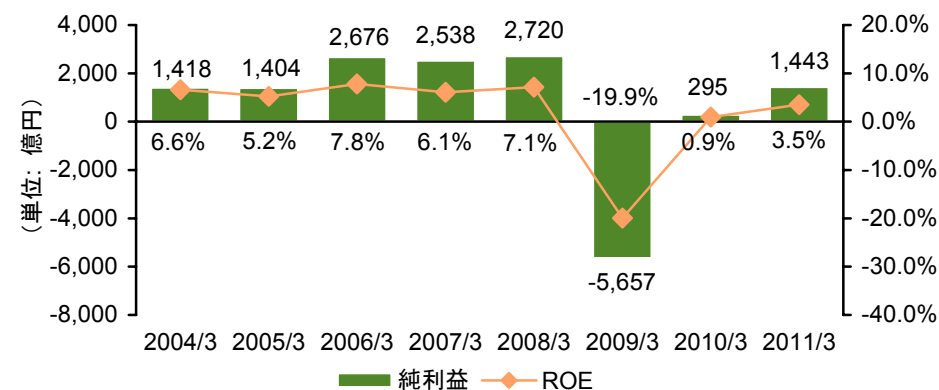
純資産額



経常利益



ROEおよび純利益



注：2011年3月末現在、単体ベース。2006年3月期以前の純資産額のデータは資本の部合計ベース
出所：農林中央金庫

損益計算書サマリー(単体)

～ 経常利益・純利益とも増益～

- 経常利益は1,173億円と目標水準(500～1,000億円)を上回る実績。

(単位:億円)	2009年度	2010年度	増減額	増減率
1 経常収益	12,572	10,710	-1,861	-14.8%
2 うち資金運用収益	7,145	6,606	-539	-7.5%
3 うちその他業務収益	2,454	1,627	-826	-33.7%
4 うちその他経常収益	2,843	2,326	-516	-18.2%
5 経常費用	11,855	9,537	-2,318	-19.6%
6 うち資金調達費用	6,479	5,577	-901	-13.9%
7 うちその他業務費用	1,736	2,475	738	42.5%
8 うち事業管理費	1,078	1,029	-48	-4.5%
9 うちその他経常費用	2,438	348	-2,089	-85.7%
10 経常利益	716	1,173	456	63.7%
11 特別利益	21	307	285	1,308.9%
12 特別損失	34	95	61	177.8%
13 税引前純利益	703	1,384	680	96.7%
14 純利益	295	1,443	1,147	388.2%

- 経常収益は、利回りの低下や有価証券売却益の減少等により減収

➢ 有価証券売却益935億円(前期比▲976億円)

- 経常費用は、ポートフォリオの内容改善を実施し有価証券売却損が増加したものの、金利低下による調達コストの低減と経済環境の落ち着きを反映した与信コストの低減により減少

➢ 有価証券償却320億円(前期比▲1,090億円)

➢ 有価証券売却損1,789億円(前期比+1,373億円)

➢ 与信関係費用は250億円の収益計上

(うち特別利益の貸倒引当金戻入益269億円, 前年度は1,529億円の費用計上)

- 経常利益は、与信コストの低減が寄与し増益

- 純利益は、特別利益での貸倒引当金の戻りと法人税等の減少から経常利益段階を上回る増益

運用・調達利回りの状況(単体)

～ 利回り差は改善～

■ 運用・調達利回りとも低下しつつも、利回り差は改善(0.10%→0.17%)

	平均残高(単位:億円)			歩合(単位:%)		
	2009年度	2010年度	増減額	2009年度	2010年度	増減幅
1 (運用調達利回り差)				0.10	0.17	0.06
2 (運用)	679,752	689,745	9,992	1.64	1.18	-0.46
3 うち貸出金	112,754	130,757	18,003	0.87	0.65	-0.21
4 うち有価証券等	448,496	435,751	-12,744	2.18	1.59	-0.59
5 円貨建有価証券	151,830	151,751	-79	1.20	0.87	-0.33
6 外貨建有価証券	296,665	284,000	-12,665	2.68	1.97	-0.70
7 うち特定取引資産	54	396	342	-12.30	0.08	12.38
8 うち短期運用資産等	106,716	114,804	8,087	0.21	0.13	-0.07
9 (調達)	679,752	689,745	9,992	1.53	1.00	-0.52
10 うち信連等調達	373,410	393,538	20,127	1.03	0.84	-0.18
11 うち農林債	54,279	55,455	1,176	1.22	1.22	-0.00
12 うち市場・対顧調達	196,232	183,240	-12,992	0.83	0.76	-0.07
13 うち円貨市場調達	11,667	11,752	84	0.21	0.17	-0.03
14 うち外貨市場調達	155,472	144,856	-10,616	0.47	0.37	-0.10

■ 運用利回りの低下幅に対し、調達利回りの低下幅が大きく、利回り差は改善(前期比+0.06%)

■ 運用利回りは、有価証券等の運用利回り低下を主因に、前期比▲0.46%

■ 調達利回りは、内外短期金利の低下等により、前期比▲0.52%

注:2011年3月末現在、単体ベース。有価証券等は、金銭の信託、買入金銭債権を含みTBを除く。
出所:農林中央金庫

貸借対照表サマリー(単体)

～ 安定的な調達基盤を背景としたポートフォリオ運営～

■ 総資産は1兆815億円増加, 純資産は3,187億円増加

(単位: 億円)	2010年 3月末	2011年 3月末	増減額	増減率
(資産の部)				
1 貸出金	130,380	140,023	9,643	7.4%
2 有価証券	440,137	430,700	-9,436	-2.1%
3 金銭の信託	65,556	77,510	11,954	18.2%
4 現金預け金	21,803	18,280	-3,523	-16.2%
5 その他	26,825	29,004	2,178	8.1%
6 資産の部合計	684,703	695,519	10,815	1.6%
(負債の部)				
7 預金	391,087	409,570	18,483	4.7%
8 譲渡性預金	7,027	7,681	653	9.3%
9 農林債	56,117	54,216	-1,900	-3.4%
10 借入金	22,844	20,756	-2,087	-9.1%
11 その他	168,310	160,791	-7,519	-4.5%
12 負債の部合計	645,387	653,015	7,628	1.2%
(純資産の部)				
13 資本金	34,259	34,259	-	-
14 資本剰余金	250	250	-	-
15 利益剰余金	8,185	9,681	1,496	18.3%
16 その他	-3,377	-1,686	1,691	-
17 純資産の部合計	39,316	42,504	3,187	8.1%

■ 資産の部は, 政府向け貸出金や債券を主体とした金銭の信託の増加により前期比+1兆815億円

■ 負債の部は, 会員からの預金の増加により, 前期比+7,628億円

■ 純資産は, 純利益の積上げ, その他有価証券評価差額金の改善により, 前期比+3,187億円

有価証券等の時価情報(単体)

～評価差額は改善～

- 有価証券等の評価差額は前期比2,628億円改善

(評価差額 単位: 億円)	2010年 3月末	2011年 3月末	増減額
【その他有価証券】			
1 株式	911	423	-487
2 債券	-29	13	43
3 国債	-4	29	34
4 地方債	0	0	-0
5 社債	-24	-16	8
6 その他	-6,411	-4,488	1,923
7 外国債券	-453	-1,135	-682
8 外国株式	-29	-33	-4
9 その他	-5,929	-3,318	2,610
10 うち投資信託	-5,794	-3,290	2,504
11 小計 ①	-5,529	-4,050	1,478
【その他の金銭の信託】			
12 その他の金銭の信託 ②	1,286	1,199	-86
【保有目的を変更した有価証券】			
13 その他有価証券から満期保有目的の債券へ 変更したもの ③	-1,814	-578	1,236
14 合計(①+②+③)	-6,058	-3,429	2,628

- 市場が不安定に推移する中、ポートフォリオの内容改善を実施したこと等により、前期比2,628億円の改善

注 満期保有目的の債券の貸借対照表計上額と時価との差額は4,057億円(プラス)。
2011年3月末現在、単体ベース
出所: 農林中央金庫

自己資本の状況(単体:速報値)

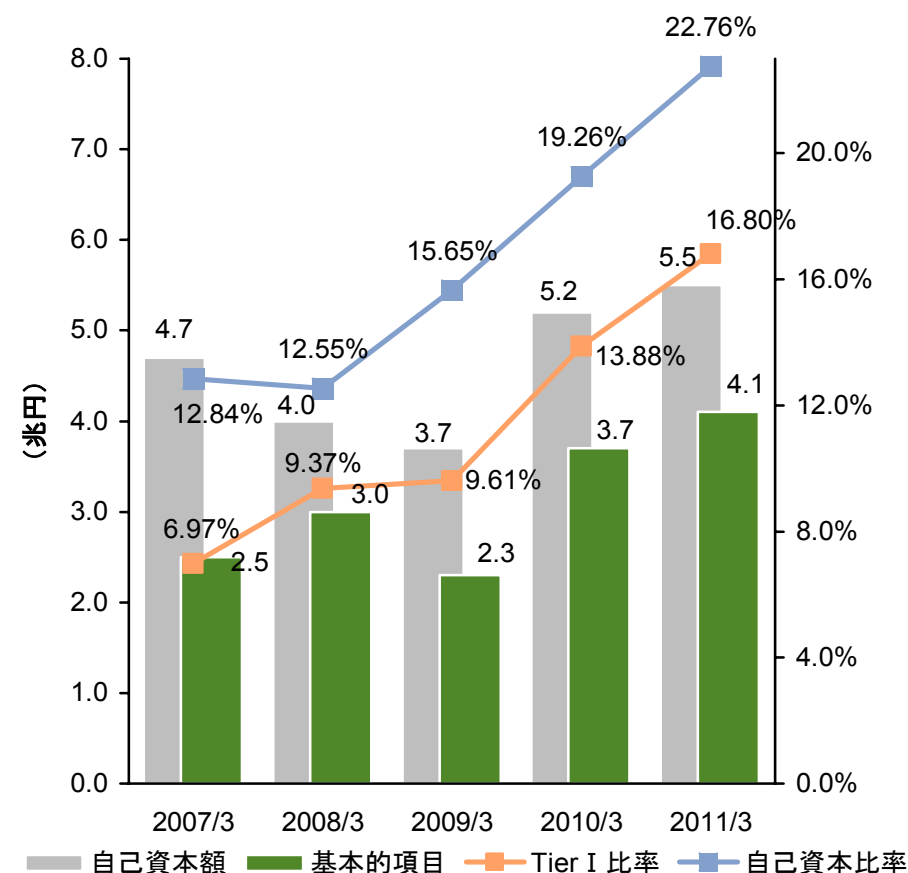
～ 自己資本比率は健全な水準を維持 ～

■ 自己資本比率, Tier I比率は各々22.76%, 16.80%。

自己資本の内訳(単位:億円)

	2010年 3月末	2011年 3月末	増減
1 基本的項目(Tier I)	37,908	41,336	3,427
2 うち資本金および資本剰余金	34,509	34,509	-
3 うち利益剰余金	8,194	9,474	1,280
4 うちその他有価証券評価差額金	-4,066	-2,216	1,850
5 補完的項目(Tier II)	17,745	17,596	-149
6 うち永久劣後債務	14,860	14,860	-
7 うち期限付劣後債務および期限付優先出資	2,658	2,543	-114
8 控除項目	3,048	2,949	-98
9 自己資本額	52,605	55,982	3,376
10 リスク・アセット	273,075	245,938	-27,136
11 自己資本比率(国際統一基準)	19.26%	22.76%	3.50%
12 基本的項目(Tier I)比率	13.88%	16.80%	2.92%

自己資本比率の推移

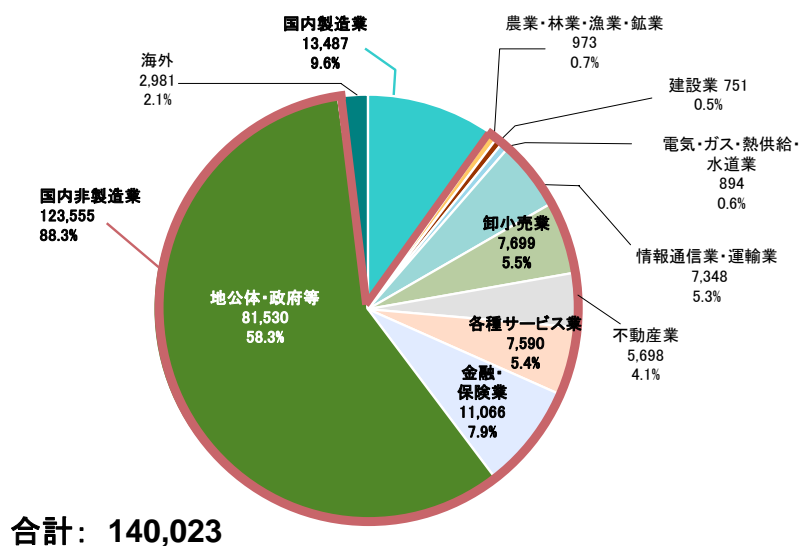


注: 2011年3月末現在, 単体ベース
出所: 農林中央金庫

～ 貸出資産ポートフォリオの概要 ～

■ 当金庫の特性を踏まえた、全体として健全性の高い貸出ポートフォリオを維持

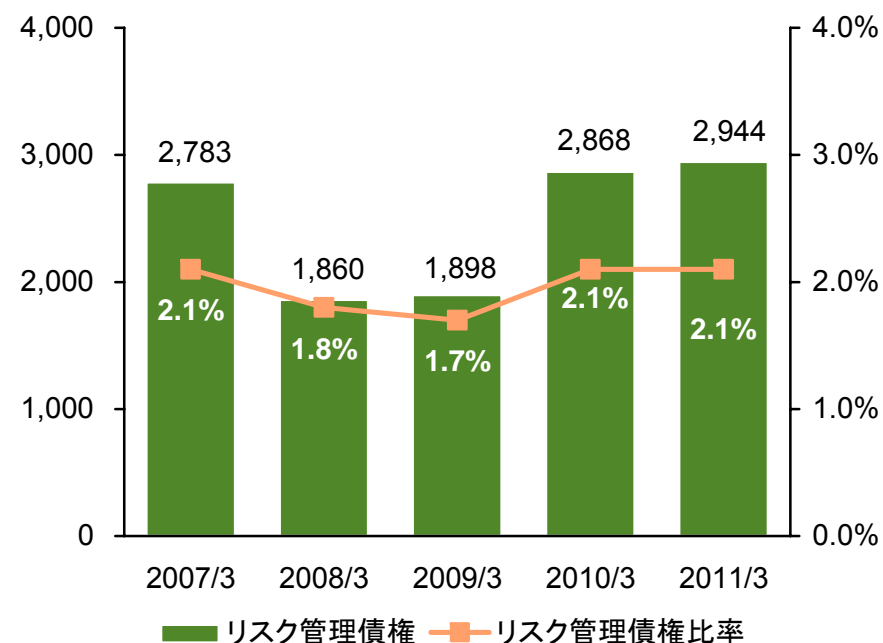
業種別貸出金残高(単位:億円)



貸出先別貸出金残高(単位:億円)

項目	残高	%
1 系統団体	5,086	4%
2 関連産業法人	32,400	23%
3 その他(地公体・政府・金融機関ほか)	102,536	73%
4 合計	140,023	100%

リスク管理債権の推移(単位:億円)



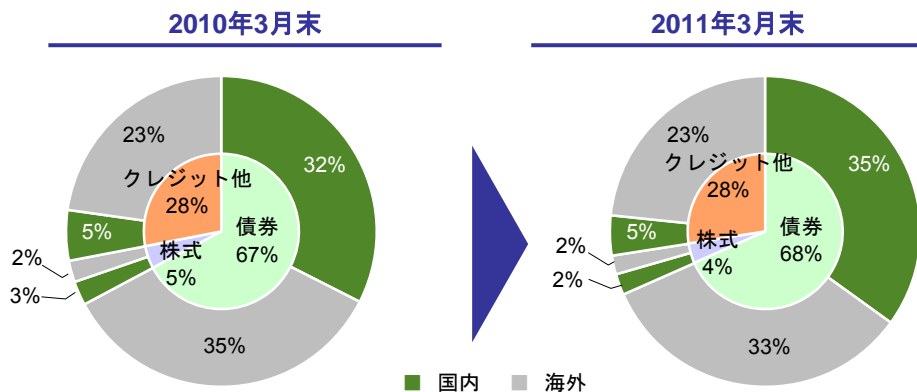
注: 2011年3月末現在, 単体ベース
出所: 農林中央金庫

市場運用資産ポートフォリオの状況(単体)

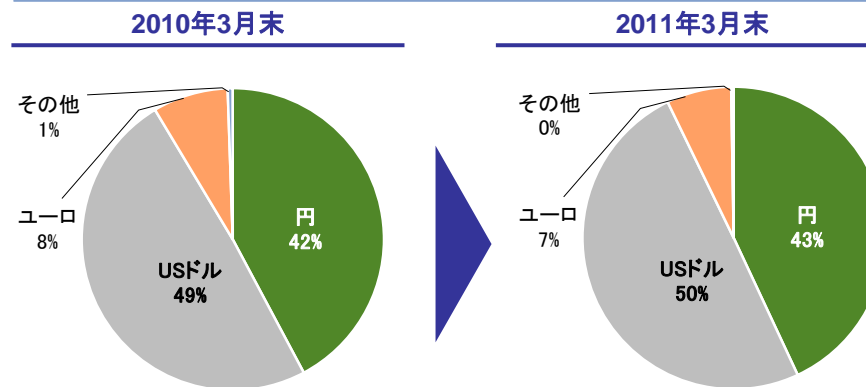
～ 市場運用資産ポートフォリオの内訳 ～

- 国際分散投資のコンセプトのもと、債券、株式、クレジット資産等の主要アセットクラスについて、通貨・地域等のバランスを考慮しつつ最適なアセットミックスの構築を志向

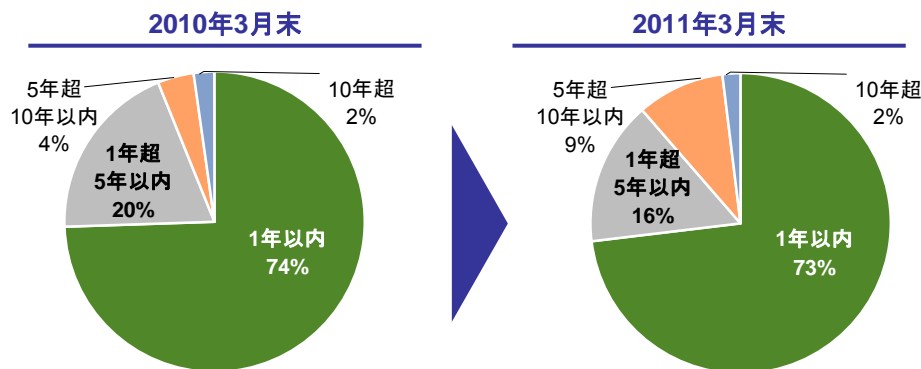
市場運用資産のリスク別内訳



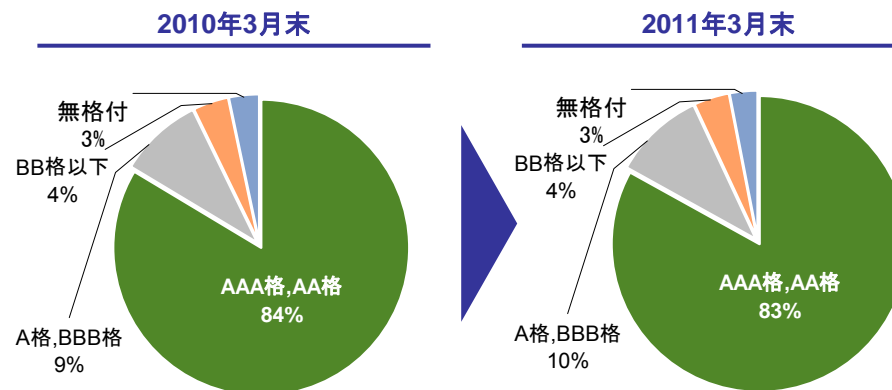
市場運用資産の通貨別内訳



市場運用資産(満期がないものを除く)の金利更改満期別内訳



市場運用部門総資産の格付別内訳



注: 2011年3月末現在, 単体ベース
出所: 農林中央金庫

証券化商品への投資について(単体:速報値)

～ 証券化エクスポージャー(注1)(注2) ～

- 証券化商品のポートフォリオは①高格付の、②一次証券化商品(資産担保証券(ABS))が中心

1 商品区別エクスポージャー

(単位: 億円)

	AAA	AA	A	BBB	BB+以下	合計	前期比
1 資産担保証券(ABS)	19,346	-	399	15	3	19,764	-5,549
2 住宅ローン担保証券(RMBS)(注3)	3,586	356	239	86	433	4,703	-790
3 商業用モーゲージ担保証券(CMBS)	771	699	783	775	494	3,524	-1,300
4 債務担保証券(CDO)	1,047	5,398	3,269	811	2,503	13,030	-4,969
5 ローン債務担保(CLO)	1,033	4,906	2,888	680	1,823	11,332	-4,354
6 証券化商品担保(注4)	-	380	338	93	642	1,454	-570
7 債券担保(CBO)他	14	111	42	37	37	244	-44
8 その他	-	-	-	446	696	1,142	204
9 合計	24,751	6,454	4,691	2,135	4,132	42,166	-12,405

2 商品区別評価差額・損益額

(単位: 億円)

	AAA	AA	A	BBB	BB+以下	合計	前期比	損益額(注5)
10 資産担保証券(ABS)	-176	-	-16	0	-0	-192	150	-
11 住宅ローン担保証券(RMBS)(注3)	11	43	42	5	15	118	166	-1
12 商業用モーゲージ担保証券(CMBS)	-137	-37	-47	-82	-14	-319	132	-90
13 債務担保証券(CDO)	-39	-211	-274	-51	23	-554	499	322
14 ローン債務担保(CLO)	-38	-203	-316	-71	-20	-652	347	195
15 証券化商品担保(注4)	-	0	18	-6	43	54	132	120
16 債券担保(CBO)他	-0	-7	23	26	-	42	19	6
17 その他	-	-	-	-	-	-	-	-
18 合計	-341	-205	-295	-129	22	-948	949	230

3 通貨別エクスポージャー

(単位: 億円)

	エクスポージャー	前期比	評価差額		損益額(注5)
				前期比	
1 米ドル	28,746	-10,262	-511	668	180
2 ユーロ	6,475	-688	-301	216	125
3 英ポンド	336	-102	-12	6	-
4 円	6,607	-1,350	-123	57	-75
5 合計	42,166	-12,405	-948	949	230

注1: 証券化商品の定義は、バーゼルIIにおける証券化エクスポージャーを基本とした内部定義による。サブプライム関連商品を含む。

注2: 証券化エクスポージャーは評価差額、損益額の反映後。一部のCMBSにおいてバーゼルIIにおける特定貸付債権に含まれるエクスポージャーが証券化エクスポージャーと別に413億円あり(評価差額▲12億円、損益額▲16億円)。

注3: サブプライムRMBSを含む。米国住宅金融公社関連のモーゲージ担保証券を含まない。

注4: ABS-CDO, CDO of CDO's等の2次、3次証券化商品。サブプライムRMBSを含むABS-CDO, CDO of CDO'sを含む。

注5: 損益額は減損額と複合金融商品の当年度損益に含まれる評価損益との合計。

注: 2011年3月末現在、単体ベース

出所: 農林中央金庫

サブプライム関連商品, その他商品への投資について(単体:速報値)

～ サブプライム関連商品, モノライン向け与信, レバレッジドローン等 ～

■ サブプライム関連商品へのエクスポージャーは873億円(損益額▲1億円, 評価差額182億円の反映後)

1. サブプライム関連商品への投資の状況(注1)(単位:億円)

(1) サブプライム住宅ローン担保証券(サブプライムRMBS:一次証券化商品)(注2)

	エクスポージャー	前期比		評価差額		損益額
		前期比	前期比	前期比	前期比	
1	AAA	83	-226	41	-11	-
2	AA	91	-20	44	55	-
3	A	178	151	44	38	-
4	BBB	12	-24	5	17	-
5	BB+以下	433	41	15	41	-1
6	合計	798	-78	151	142	-1

(2) サブプライムRMBSを含むABS-CDO(二次証券化商品)

	エクスポージャー	前期比		評価差額		損益額
		前期比	前期比	前期比	前期比	
7	AAA	-	-	-	-	-
8	AA	-	-	-	-	-
9	A	-	-	-	-	-
10	BBB	-	-107	-	-20	-
11	BB+以下	0	-42	0	-17	-
12	合計	0	-149	0	-38	-

(3) サブプライムRMBSを含むCDO of CDO's(三次証券化商品)(注3)(注4)

	エクスポージャー	前期比		評価差額		損益額
		前期比	前期比	前期比	前期比	
13	AAA	-	-	-	-	-
14	AA	-	-	-	-	-
15	A	63	63	20	20	-
16	BBB	-	-	-	-	-
17	BB+以下	11	-49	10	10	-
18	合計	74	13	31	31	-

(4) サブプライム関連商品計 ((1)~(3)の合計)

	エクスポージャー	前期比		評価差額		損益額
		前期比	前期比	前期比	前期比	
19	AAA	83	-226	41	-11	-
20	AA	91	-20	44	55	-
21	A	241	214	64	59	-
22	BBB	12	-131	5	-2	-
23	BB+以下	445	-50	25	34	-1
24	合計	873	-214	182	135	-1

注1: サブプライム関連の融資は行っていない。
 注2: ビンテージ別比率は①2004年以前100%, ②2005-2006年0%, ③2007年以降0%。
 注3: ビンテージ別比率は①2004年以前100%, ②2005-2006年0%, ③2007年以降0%。
 注4: サブプライムRMBSを一部でも含むCDO of CDO's, 但しサブプライムRMBSの含有率は僅少。

2. モノライン関連商品への投資の状況(注5)(単位:億円)

	エクスポージャー	前期比		評価差額	
		前期比	前期比	前期比	前期比
1	モノラインによる保証付金融商品(注6)	304	-1,271	-82	199
2	証券業務におけるモノライン利用	-	-	-	-
3	合計	304	-1,271	-82	199

3. レバレッジドローンへの投資の状況(注7)(単位:億円)

	エクスポージャー	前期比	
		前期比	前期比
4	国内レバレッジドローン	270	-44
5	海外レバレッジドローン	780	-260
6	合計	1,051	-305

4. トレーディング等の状況

当金庫はABCP, SIV, レバレッジドローンの組成, 引受, トレーディングを行っておらず, 関連する商品のトレーディング勘定での保有や連結非対象としているオフバランス取引は行っていない。ただし顧客企業の資産流動化を目的としたSPCを1件スポンサーしている(与信残高645億円)。

5. 米国住宅金融公社関連債券への投資の状況(注8)(単位:億円)

	エクスポージャー	前期比		評価差額	
		前期比	前期比	前期比	前期比
7	エージェンシー・モーゲージ債	36,100	7,420	534	-292
8	エージェンシー債	20,391	1,302	-774	-716
9	合計	56,492	8,723	-239	-1,009

【参考】

・ファンド投資内のサブプライム関連商品の状況
 サブプライム関連商品を主な投資対象とするファンドの保有はないが, 当金庫が運用を委託しているファンドにおいて, サブプライムRMBS(一次証券化商品)が含まれるものがある。(*)
 ファンド内のサブプライムRMBS残高267億円, 評価損益▲35億円。

(*) ファンド内個別資産が把握できるファンドにおける当金庫調査ベース

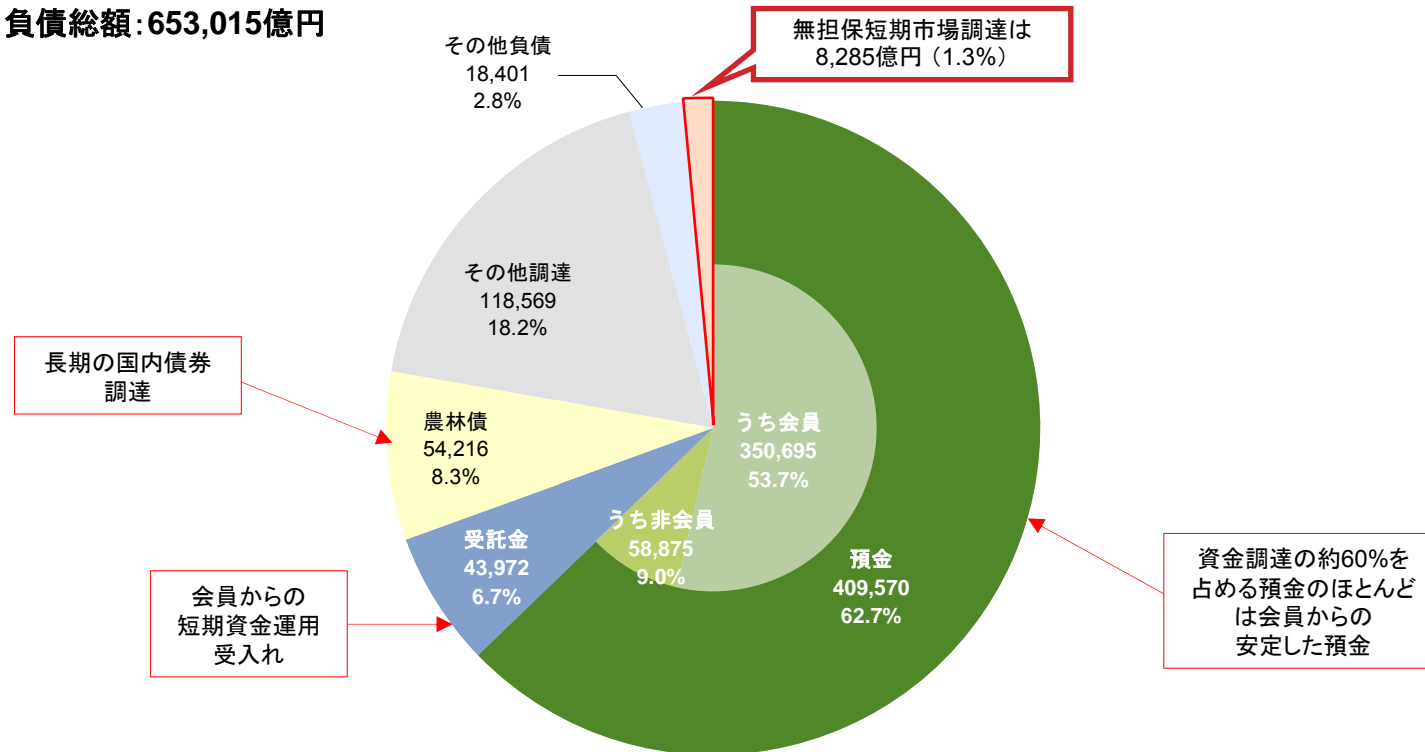
注5: モノラインによる保証付金融商品と別にモノラインのCDS等を含む証券化商品(CDO)を保有。
 注6: 米国ABSで裏付資産の保証前格付けはいずれも投資適格相当以上を確保。また被保証商品にサブプライム関連商品はない。
 注7: レバレッジドバイアウトを主な資金用途とする貸出で内部管理の定義による。買割引当金は97億円。
 注8: この他に米国政府全額出資の米政府系機関である政府抵当金庫(ジニーメイ)保証付の住宅ローン担保証券の保有額は20,519億円。
 注: 2011年3月末現在, 単体ベース
 出所: 農林中央金庫

～会員からの預金等により安定した資金調達を実現～

- 負債総額のうち、無担保短期市場調達は1.3%と極めて限定的

負債の種類別内訳

負債総額: 653,015億円



注1: その他調達は有担保調達である売先勘定・債券貸借取引受入担保金等、借入金(有担保、劣後ローン)を、その他負債は支払承諾、引当金等を、また無担保短期市場調達は特定取引負債、譲渡性預金、および無担保コールマネーを含む。

注2: 2011年3月末現在 単体ベース

出所: 農林中央金庫

連結損益計算書・連結貸借対照表サマリー

農林中央金庫

～ 連結経常利益, 純利益とも増益 ～

■ 経常利益1,047億円, 純利益1,295億円

(単位: 億円)	2009年度	2010年度	増減額	増減率
1 経常収益	12,680	10,818	-1,862	-14.7%
2 うち資金運用収益	7,191	6,650	-541	-7.5%
3 経常費用	11,914	9,770	-2,143	-18.0%
4 うち資金調達費用	6,480	5,577	-902	-13.9%
5 うち事業管理費	1,148	1,100	-48	-4.2%
6 経常利益	766	1,047	280	36.7%
7 特別利益	25	296	271	1,074.5%
8 特別損失	34	96	62	178.7%
9 税金等調整前純利益	756	1,246	489	64.7%
10 純利益	330	1,295	964	291.6%

(単位: 億円)	2010年 3月末	2011年 3月末	増減額	増減率
(資産の部)				
1 貸出金	130,976	140,827	9,851	7.5%
2 有価証券	439,947	430,417	-9,529	-2.2%
3 金銭の信託	65,566	77,518	11,951	18.2%
4 現金預け金	21,953	18,376	-3,577	-16.3%
5 その他	28,323	31,198	2,875	10.2%
6 資産の部合計	686,767	698,338	11,571	1.7%
(負債の部)				
7 預金	391,016	409,493	18,477	4.7%
8 譲渡性預金	7,027	7,681	653	9.3%
9 農林債	56,057	54,163	-1,894	-3.4%
10 借入金	20,433	18,660	-1,773	-8.7%
11 受託金	42,771	43,972	1,201	2.8%
12 その他	129,899	121,769	-8,130	-6.3%
13 負債の部合計	647,206	655,740	8,534	1.3%
(純資産の部)				
14 資本金	34,259	34,259	-	-
15 資本剰余金	250	250	-	-
16 利益剰余金	8,374	9,723	1,348	16.1%
17 その他	-3,322	-1,634	1,688	-
18 純資産の部合計	39,560	42,598	3,037	7.7%

注: 2011年3月末現在
出所: 農林中央金庫

參考資料

～復興支援プログラムの概要～

東日本大震災により第一次産業従事者、農協・漁協・森林組合が甚大な被害を受けたことを踏まえ、農林水産業の復興を全力かつ多面的に支援するため、「復興支援プログラム」を創設

<復興支援プログラムの概要>

- 本プログラムは、複数年(4年程度)にわたって実施し、その間の事業規模(低利融資等)は1兆円、当金庫の支援額は300億円を想定しています。復興支援の推進にあたり、当金庫職員の人員派遣等の人的支援も併せて実施する予定です。

内 容	対象者	JAバンク・JFマリンバンク・森林系統
金融支援 プログラム	農林水産 業者等	金融対応（利子補給、復興再生ローン（低利融資）等）
事業・経営支援 プログラム	会員組織	事業復旧（店舗、ATM、端末等のインフラ復旧支援）
		経営対策（会員の経営基盤強化のための支援等）

～ 主な系統組織の仕組み ～

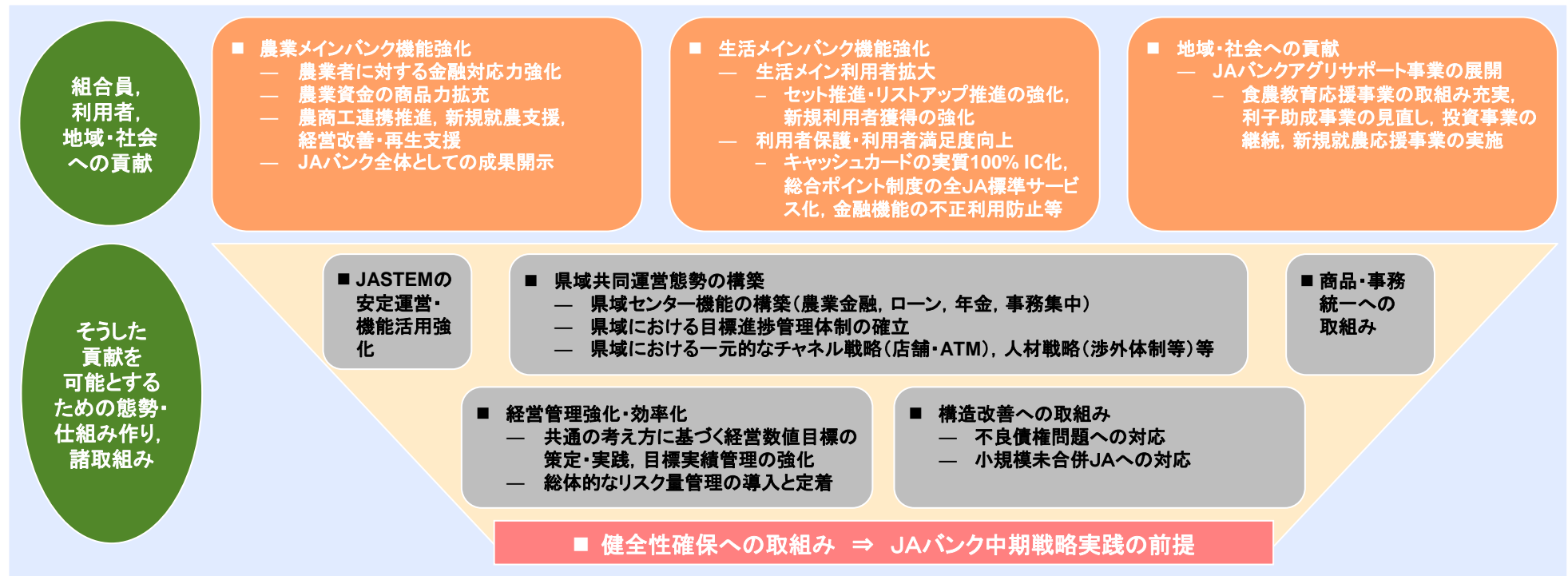


出所：農林中央金庫

~ (基本目標)「農業とくらしに貢献し, 選ばれ, 成長し続けるJAバンク」の実現 ~

■ JAバンクでは, 基本目標の実現に向け, JA・信連・農林中金が一体となって, JAバンク中期戦略(平成22~24年度)を実践していきます

■ JAバンク中期戦略(平成22~24年度)における具体的実践事項(骨子)



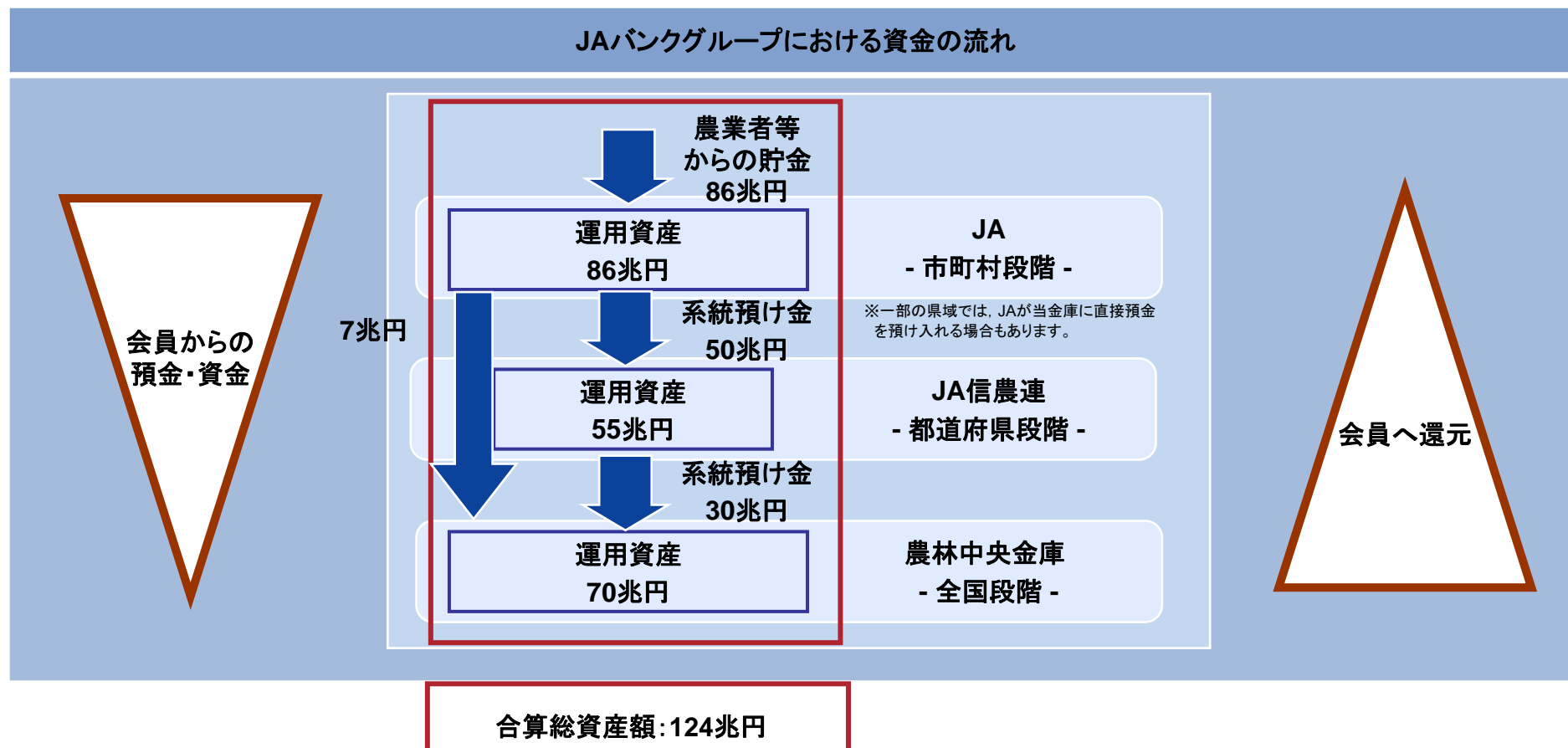
■ 平成24年度に目指す姿

- 農業法人, 大規模農業者との関係強化, 利用者数拡大
- 農家組合員, 生活利用者の満足度向上
- 次世代, 次々世代の利用者数拡大
- 生活利用者数拡大, 地域シェア向上, 利用拡充
- JA・JAバンクに対する地域の評価の向上

JAバンクグループの状況①（資金の流れ）

～ JAバンクグループにおける資金の流れ ～

- JAバンクグループ = JA(市町村段階) + JA信農連(都道府県段階) + 農林中央金庫(全国段階)



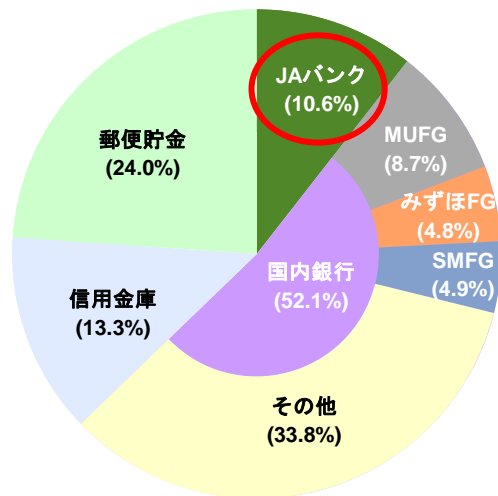
注: 2011年3月末現在
 合算総資産額=運用資産(86兆円+55兆円+70兆円)-預け金(50兆円+7兆円+30兆円)。
 出所: 農林中央金庫

～JA貯金の安定的な推移～

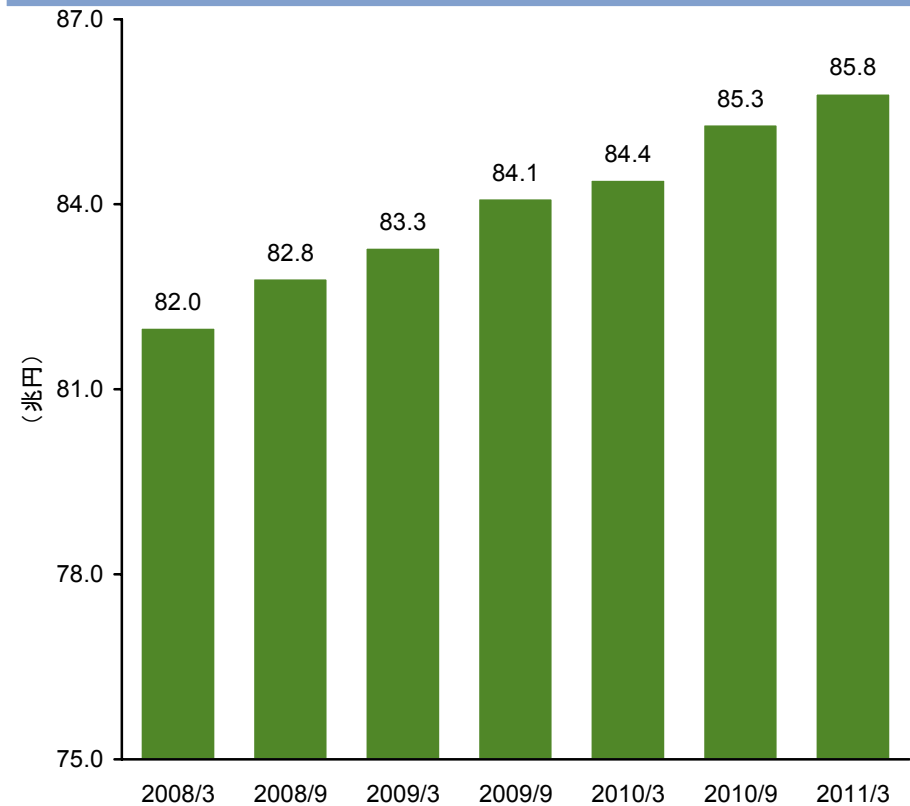
- JAの店舗数は8,707 (2010年3月末)に達し、強力な営業基盤とネットワークを有する(2011年4月時点のJA数は715)
- JA貯金残高は長期間に亘り、安定的に伸長している

預貯金残高(個人)

個人預貯金残高合計: 729兆円



JA貯金残高の推移



注: 2010年9月末時点。日本銀行資料、全国銀行協会資料、信金中金総合研究所資料、日本郵政公社のディスクロージャー資料、各行の決算説明資料をもとに農林中央金庫作成。
JAバンク、国内銀行及び信用金庫の残高は個人預貯金、郵便貯金は全貯金額

注: JA貯金残高は個人貯金、個人貯金以外(公金・企業等)の合計
出所: 農林中央金庫

～設備・運転資金など幅広い資金需要への対応～

- 農業者の様々なニーズに対応した資金種類を準備することにより、農業を金融面からサポート

資金種別農業資金の残高 (単位:億円)

種類	2010年3月末
プロパー農業資金	16,932
農業制度資金	7,199
農業近代化資金	2,327
その他制度資金	4,871
合計	24,132

農業資金の受託貸付金の残高 (単位:億円)

種類	2010年3月末
日本政策金融公庫資金	6,951
その他	30
合計	6,982

プロパー農業資金とは、JAバンク原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。

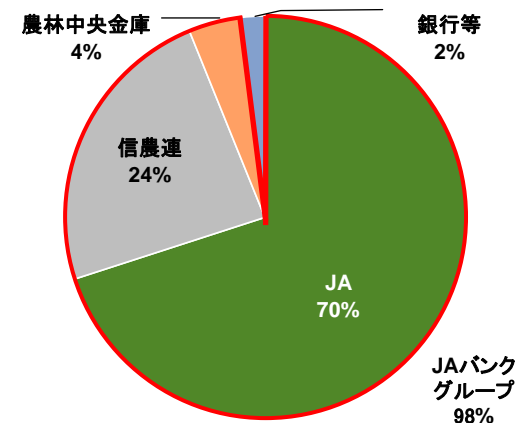
農業制度資金には、①地方公共団体が直接もしくは間接的に融資するもの、②地方公共団体が利子補給等を行うことでJAバンクが低利融資するものが該当します。

その他制度資金には、スーパーS資金や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

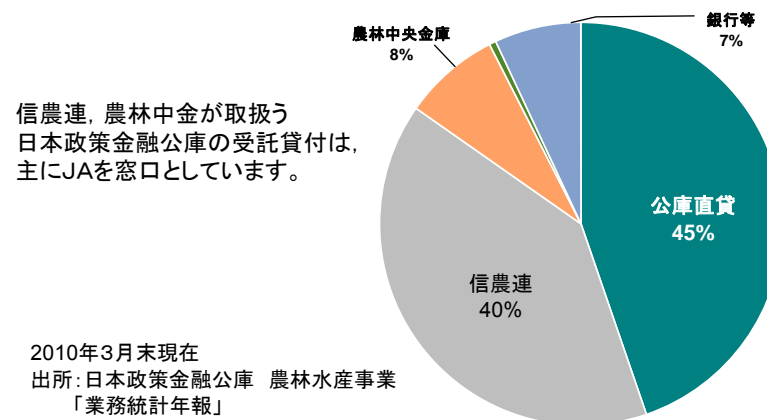
出所: 農林中央金庫

- 主要な制度資金である農業近代化資金、日本政策金融公庫農業資金の取扱いでは、JAバンクはトップシェア

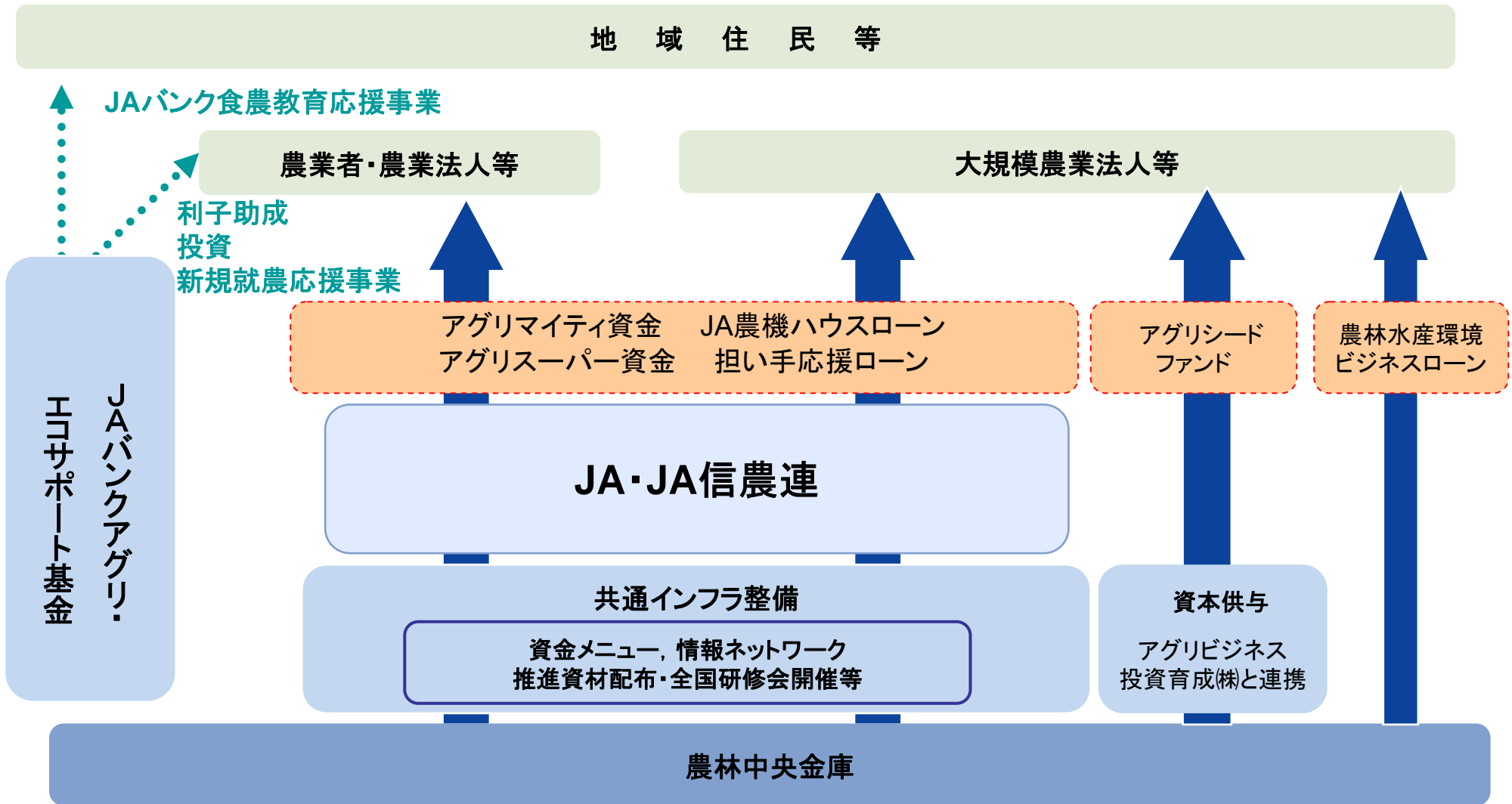
農業近代化資金 融資残高シェア



日本政策金融公庫 農業資金取扱残高シェア



～ JAバンクグループが一体となった農業担い手支援 ～



アグリマイティ資金: 運転・設備資金 JA農機ハウスローン: 生産設備資金 農林水産環境ビジネスローン: 生産および加工・流通・販売等にかかる設備・運転資金等
アグリスーパー資金: 水田・畑作経営所得安定対策対象者向け運転資金 担い手応援ローン: JAで行う税務対応支援等を受けている農業者向け運転資金

JAバンクグループの農業者等に対する取組み②

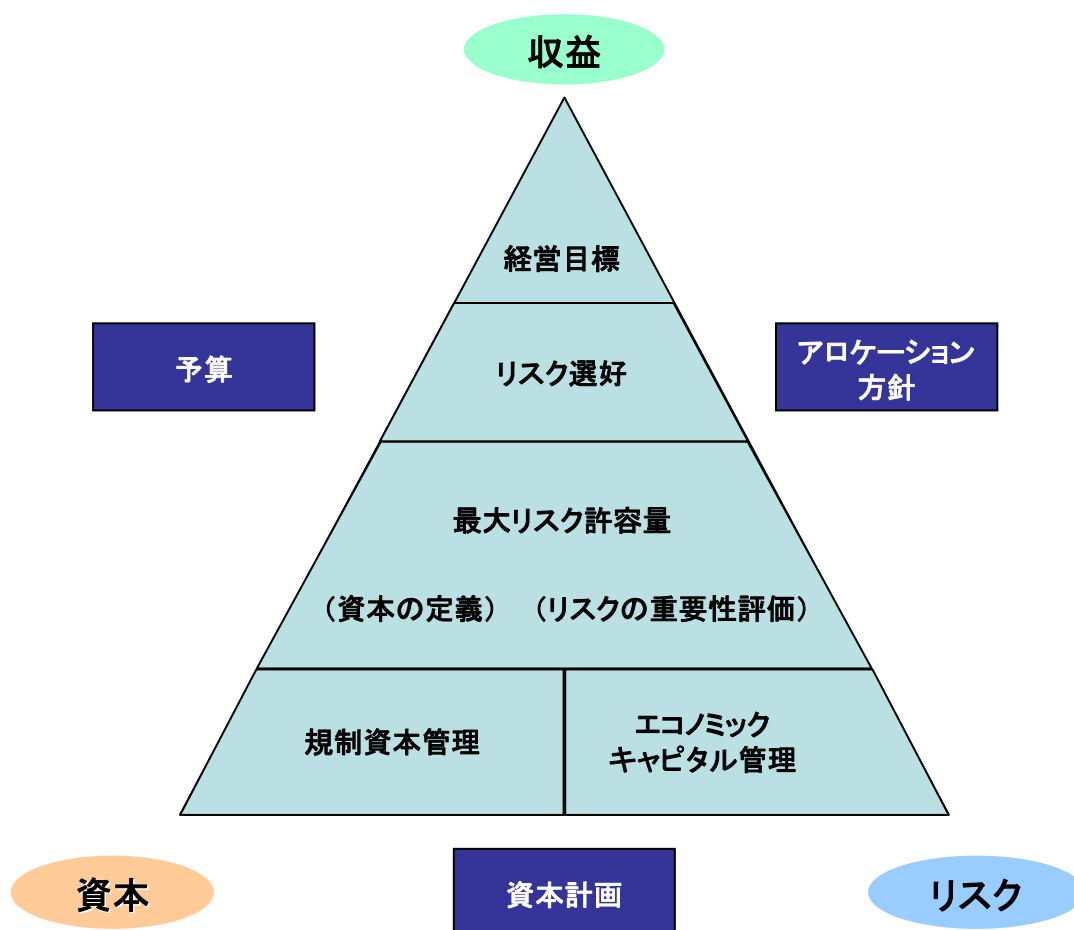
～ JAバンクグループとしての機能提供～

- 「農業メインバンク」として機能発揮のため、JA・JA信農連・農林中央金庫が一体となって各種取組みを実施。農林中央金庫は、インフラ提供等によりJA・JA信農連の取組みをサポート。
- 地域・社会への貢献として、JAバンクアグリ・エコサポート基金を通じ、「JAバンクアグリサポート事業」を展開

JAバンクの取組み		農林中金のサポート・取組内容	
農業資金の提供を始めとする支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多様化する農業者の幅広い資金需要に応じた各種農業資金・制度資金の適切な提供 ■ 営農指導・経済事業部門と連携した農業者への訪問活動、相談対応、資金提案 ■ アグリビジネス投資育成(株)による出資や、JA三井リース(株)によるリースなど、総合的な金融サービスの提供 ■ 6次産業化に向けた農商工連携等の推進 ■ 営農指導・経済事業部門と連携した戸別所得補償制度の制度説明や申請手続支援等の農業者サポート 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業融資商品(全国要綱)の企画・推進、JA向け推進資材の提供 ○ JA・JA信農連と連携した農業法人への訪問、相談対応、資金提供 ○ 全国研修会の実施・県域研修会資材の提供などの人材育成支援 <ul style="list-style-type: none"> ・担い手金融リーダー全国大会開催 ○ 全国連等と連携した農業担い手支援の取組み <ul style="list-style-type: none"> ・JAグループ全国連担い手対応連絡協議会(全中, 全農, 全共連)によるJA事業間連携強化等への取組み ○ 農業法人育成のための資本供与の枠組み整備(アグリシードファンド, 2010年4月) ○ 6次産業化に向けた農商工連携等への取組み <ul style="list-style-type: none"> ・JAグループ国産農畜産物商談会の開催(全国, 2010年3月) ・地域商談会の開催(北陸, 2010年10月) ・海外商談会への参加(香港, 2010年9月) ・生産者・系統団体と商工業者とのビジネスマッチング ○ JA・JA信農連と連携した相談窓口設置など農業者の金融円滑化に向けた各種対策・支援 	
農業者の金融円滑化に向けた各種対策	<ul style="list-style-type: none"> ■ 疫病・災害などの被災農業者支援 <ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口設置, 災害対策資金, 利子助成, 償還条件緩和等 ■ 農産物の価格低迷や農業生産資材の価格高騰などにかかる農業者支援 ■ 経営不振農業者の経営改善支援 		
JAバンクアグリサポート事業の取組状況			
食農教育応援事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 食農教育等をテーマとしたオリジナル教材を21千校の小学校に贈呈 ■ 全国のJA等の食農教育等の取組みに助成実施 	投資事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 農業振興、環境貢献等に取り組む企業経営体に、アグリ・エコファンドを通じ資本提供・育成支援を実施
新規就農応援事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新規就農希望者(研修生)を育成するための研修を行う農家等に助成【22年度からの新規事業】 	利子助成事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ JAが融資する農業資金に対し利子助成を実施

～ 自己資本充実度評価プロセス～

- バーゼルⅡ 第二の柱を踏まえた自己資本の充実度評価プロセス (Internal Capital Adequacy Assessment Process=ICAAP)



1. リスク選好

- 経営の健全性を維持しつつ、会員等に対して安定的な還元を行うことが、最も重要な役割であることを確認
- 経営戦略遂行のために必要なリスクの種類及び規模の認識
 - 国際分散投資を基本コンセプトとする安全・安定を重視したポートフォリオ運営
 - ストレス状況にも耐え得る自己資本の確保と十分な流動性の維持

2. 最大リスク許容量の設定

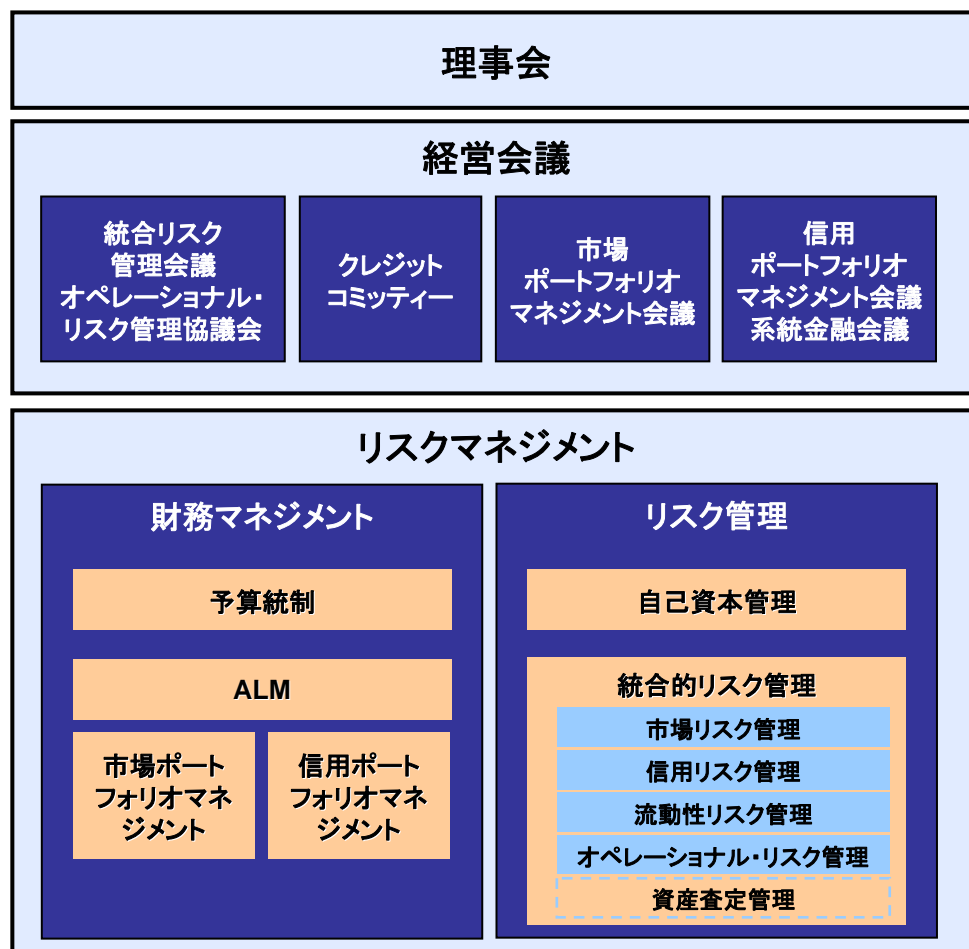
- 重要なリスクについて許容可能な最大値を設定
 - 重要なリスクの種類: 市場リスク, 信用リスク, オペレーショナル・リスク
 - これらのリスクをカバーする資本と最大リスク許容量の定義

3. リスク選好と最大リスク許容量との整合性を確認

- 規制資本管理およびエコノミックキャピタル管理において、チェックポイント設定やストレステストの実施などを通じ、リスク選好に基づき定量的に認識されるリスク量が、最大リスク許容量として表される資本量を超えておらず、また超えるおそれがない状況にあることを確認

～ リスク管理体制の概要 ～

- エコノミックキャピタル管理を中心的機能として、リスクを統合的に管理していく仕組みとしての「統合リスク管理」を実践



1. 理事会

- 中期経営計画、業務計画、エコノミック・キャピタル管理および運営、予算といった経営目標を決定。また、自己資本充実度評価プロセス(ICAAP)を実施
- 内部監査及び外部監査からのフィードバックをもとに、リスク管理体制の状況を把握

2. 経営会議

- 統合リスク管理会議において、エコノミック・キャピタル管理や規制資本管理、理論価格の取扱いにかかる重要事項を協議・決定
- そのもとで、市場・信用ポートフォリオマネジメント会議等において具体的なポートフォリオ運営方針を決定

3. リスクマネジメント

- 統合的リスク管理として、市場リスク、信用リスク、流動性リスク、オペレーショナルリスクを個別に管理する部署と、それらを統合的に管理する部署を設置して、それぞれの役割と責任を明確化
- 統合的リスク管理と一体となった形で、経済・金融環境の変化や市場の変動のなかで、リスク、収益、資本のバランスを慎重に見極め、健全性と収益力に配慮した柔軟な財務マネジメントを実現

- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等についての検証を行っておらず、また、これを保証するものではありません。当金庫は、本プレゼンテーション資料に記載されている情報の利用から生じる損害が直接的、また、間接的であるかに関わらず、何ら責任を負いません。
- 本プレゼンテーション資料には、当金庫に関連する見通し、計画、目標などの将来に関する記述がなされています。これらの記述は、当金庫が現在入手している情報に基づき、本プレゼンテーション資料の作成時点における予測等を基礎としてなされたものです。また、これらの記述は、一定の前提(仮定)の下になされています。これらの記述または前提(仮定)が、客観的には不正確であったり、または将来実現しない可能性があります。
- 本プレゼンテーション資料は、有価証券の販売のための勧誘を構成するものではありません。